創刊3000号 これからの観光経済新聞に望む

順不同

課題解決へ業界牽引を

市川薫・草津温泉 観光協会会長

創刊3千号、心からお祝い申し上げます。

観光業界は他産業に比べると地位が低く、長い間厳しい状況下でした。今では日本の経済を牽引する産業にまで発展し、政府も成長産業の柱として動き始めました。

発信する貴紙の声に業界全体が励まされ、成長してまいりました。しかし昨今、社会情勢は著しく変化し、顧客の多様化、インバウンドの受け入れ、人口減少による人手不足等、課題は山積です。

その中で、今後の情報や動向、地域の取り組み、災害対策、また顧客満足度を上げる取り組みや働く人が生き生きと輝いて働ける仕組みづくりなど、専門紙として牽引していただけますことを期待しております。

新しい時代に向かって！

竹節義孝・山ノ内町町長

創刊から69年、3千号を迎え、長きにわたり観光産業の重要な情報発信源であり続けてきた貴社に、改めて敬意と心よりお祝い申し上げます。

昨年は「にっぽんの温泉100選」の実行委員会特別賞に「湯田中渋温泉郷」をご選考いただき感謝申し上げます。受賞を糧にこれからも〝不易流行〟、歴史や伝統、時代やニーズを大切に「千客万来」「一客再来」の観光地づくりに頑張ってまいります。

〝観光地は、土地の光を観る〟。時代とともに旅行者ニーズの多様化や変化が激しく進む時、貴紙の幅広い角度からの情報発信に大いに期待し、重ねて創刊3千号を機に新しい時代に向かって、より一層のご発展を祈念いたします。

国内の最新の業界動向を

瀧康洋・下呂温泉 観光協会会長

創刊3千号発行誠におめでとうございます。まずますのご繁栄を祈念し一言申し上げます。

「業界動向の情報をいかに早くつかむか。それが営業の成果に直結する」と私は常々会議で社員に言っています。

近年、業界動向は日々変化し複雑化して宿泊業者を悩ましています。国内の業界動向は、調査・分析することが遅くなり、結果として営業が後手になります。

その動向を観光経済新聞のネットワークが業界紙として示すことができるかが今後の課題であると私は考えていますし、それができるのも観光経済新聞であると認識しています。ぜひ、新たな地域の取り組みを多く掲載して下さい。

観光立国推進の一翼担え

溝畑宏・大阪観光局理事長

観光経済新聞は、私が訪れた2010年観光庁長官就任後、観光立国推進、東楽！日本大震災における観光情復興などにおいて観光行会社の役員をはじめ、多くの読者が熱心に「観光経済新聞」を読んでくれているのがうれしい。

「観光立国」から「観光大国」へ、わが国の政策は動いている。そのための情報が満載されている本紙は貴重である。で、3千号を迎えたという。週刊だから、気の遠くなる歴史を誇る専門紙だと判る。心から敬意を表し、謹んでお祝い申し上げたい。

私の専門外の新聞なのだが、異なった知識を持つことによって、人間としての幅が広がった。スポーツと観光は、「平和」でなければできないので、本紙の活躍が重要である。

歴史を誇る専門紙に敬意

松浪健四郎・日本体育大学理事長

先日、九州・水俣市を訪れた。宿泊した旅館の女将さんが、「コラムを楽しみにしていますよ！」と言ってくれた。旅館新聞」として業界発展のために寄与しました

観光業界の指針であれ

前田勇・立教大学 観光学研究科名誉教授

観光経済新聞はわが国の観光に関して、政策・行政をはじめ、さまざまな取り組みの実際から教育・研究活動の紹介と今後の課題となる事柄についても提起し続けていることは周知のことである。が最近10年間あまりの中で、筆者がとくに意味深い提言と思うのは、平成22（2010）年3月に提起「観光立国は国内観光の充実から」であり観光成立の仕組みについての考察から始まり、課題解決にまで踏み込んだ力作と評することができるものであった。

その後訪日客の増加がそれに続いたことから、各地でさまざまなトラブルが生じているが、その多くは予見できるもので受け入れ側の楽観的過ぎる対応が影響していることも否定できない。多くの条件で蓄積される観光の交流が関係する観光らは多くの専門的知識が求められている。

観光経済新聞が今後も安易な阿諛追従を否定し観光業界の指針であり続けることを願っている。

業界を俯瞰する役割期待

橋本俊哉・立教大学 観光学部長・教授

平成の30年間で観光をめぐる状況は目まぐるしく変化しました。「訪日外国人旅行者数と日本人海外旅行者数の逆転」もその一つで、国際収支面での貢献が謳われていますが、果たしてどれだけ進んだと言えるでしょうか。

SNSの普及等により、ともすれば視野狭窄に陥りやすい現代こそ、本紙には、観光の本質を見据えて幅広い視野から業界を俯瞰する指針としての役割を期待しています。

「観光立国」推進の裏方

石森秀三・北海道大学 観光学高等研究センター 特別招聘教授

観光経済新聞の功績は「観光立国推進の裏方」としての偉大な貢献にあります。当初は月刊「旅館新聞」として業界発展のために寄与しました

観光共生社会への役割

玉井和博・立教大学 観光研究所特任研究員

観光が日本の基幹産業を目指すにはまだまだ多くの課題を抱えています。とりわけ多岐な業界が複雑に関わる観光産業は情報の共有が大きなポイントとなります。自然界の美しい花々も、雄蕊と雌蕊だけでは受粉できず、そこには「風や蝶や蜂」の仲立ちがなければ新しい生命は誕生しません。同様に社会生活の中で人々が「共生」するためには、それぞれが不足する部分を補ってくれる他者の存在が必要です。

今、まさに貴紙こそが観光共生社会の「風や蝶や蜂」となり観光産業の健全な発展のため、さらなるご発展とご活躍を祈念いたします。創刊3千号心からお祝い申し上げます。

業界に希望を与える原動力

篠原靖・跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部准教授

創刊以来69年の長きにわたり観光産業発展のために、さまざまな業界改革の提言を続けて来られた貴紙のご功績に心から敬意を表します。

わが国の観光産業の役割は、従来に増して元気のない経済と地方創生の救世主として位置づけられておりますが、その発展の礎となるのが遅れている高度な観光人材の育成です。貴紙への期待はマクロ的視点で宿泊、運輸、旅行業、さらにはOTAの各分野すなわち観光産業全体を俯瞰し、貴社主催のグローバルな観光人材育成講座の開催など専門誌としてのノウハウを存分に発揮した新たなビジネスに進出し、さらなる業界貢献に期待したいと思います。節目となる3千号の発刊を機に、さらなる躍進をお祈りしております。

本当のおめでとうは…

松坂健・オフィスアト・ランダム代表

3千号！　途方もない数字です。観光事業は日々、異なる経営環境、お客さまの好みの変化にさらされる業界です。貴紙が長年にわたって観光業界へ貢献されてきたことの証左だと思います。

「若者の○○離れ」というキーワードがあらゆるところで聞かれます。若者の海外旅行離れもよく言われますが、私が接している大学生を見る限り、それは当てはまりません。それよりももっと深刻なのは、若者の新聞離れです。ほとんど誰も読んでいないのです。ただ、だからといってメディアがネットだけになってしまうと、新規勢力に簡単に参入されてしまいます。ここで、観光系大学と専門学校とコラボした取り組みを増やして、まず観光に生きようとしている学生から市場創発していくことを提案しま

若者の読者層の創発を

島川崇・日本国際観光学会会長

創刊3千号誠におめでとうございます。貴紙が長年にわたって観光業界へ貢献されてきたことの証左だと思います。

「若者の○○離れ」というキーワードがあらゆるところで聞かれます。若者の海外旅行離れもよく言われますが、私が接している大学生を見る限り、それは当てはまりません。それよりももっと深刻なのは、若者の新聞離れです。ほとんど誰も読んでいないのです。ただ、だからといってメディアがネットだけになってしまうと、新規勢力に簡単に参入されてしまいます。ここで、観光系大学と専門学校とコラボした取り組みを増やして、まず観光に生きようとしている学生から市場創発していくことを提案しま

ブレない情報配信を期待

小畑貴裕・東京YMCA国際ホテル専門学校校長

観光経済新聞、創刊3千号おめでとうございます。

本学は1935年の創立以来1万2千名を超える卒業生をホテル・旅館・観光業界の求める人材として輩出してまいりました。特に日本全国のホテル・旅館継承者への学びの場の提供と人脈の結びつきを強固にする歩みでありました。

本学と貴社とは「旅館新聞」の時代からのお付き合いとなり、3世代にまたがる継承者の卒業生は御社から発信される貴重な業界情報を頼りにしています。これからも時代の潮流を読む業界専門紙として、ブレない情報の配信を期待しております。貴社との長年のつながりを大切に、観光業界を支える仲間として尽力してまいりたいと思います。

業界の健全な発展に寄与を

石塚勉・日本ホテル教育センター理事長

1950年旅館新聞として発足、1981年観光経済新聞へ改名、通算3千号の発刊おめでとうございます。観光経済新聞は、江口恒明前社長の「観光立国は地方創生から」という強い信念の下、政財界をはじめ観光業界に広い人脈を構築し、日本各地を行脚して情報を収集、全国に配信、現在に見る観光業界の発展に確立されましたことに改めて深甚なる敬意を表します。

貴紙で連載の機会をいただき、執筆を開始したのが1991年3月9日、28年前のことです。第1回目のタイトルは「女心をモノで射止める時代は終り」というものでした。旅館に代表される日本のもてなしは気配り（配慮行動）が標準化され、そのサービスがさらに上位の配慮行動を取り込むことでハイコンテクストサービスとして進化していきます。貴紙にはいまで同様、示唆に富む提言と旅館のもてなし文化の継承にお力添えをいただければと存じます。

もてなし文化継承に力を

福島規子・九州国際大学 現代ビジネス学部教授

創刊3千号を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。観光業界とともに歩み、専門紙として揺るぎない地位を

なくてはならない加盟社

入澤亨・日本専門新聞協会理事長

創刊3千号に当たり、心からお祝い申し上げます。

観光経済新聞社は公益社団法人日本専門新聞協会になくてはならない加盟社であります。

専門紙は産業、経済、教育、文化等の幅広い分野のそれぞれの動向を専門的に分析し、報道、論評をすることで、国民生活の向上や産業経済の発展に寄与することを使命としています。そのなか、「観光経済新聞」は、文字通りに観光経済の分野にて創刊以来、羅針盤的役割を担い、今日に至っています。

今や国の重要な産業となりました観光経済の一層の発展を託され、今後もその重責を果たすことが期待されています。観光経済新聞社の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

tap
宿泊施設 総合情報システム
ゲストハウスからフルサービスホテルまで
多言語・海外拠点にも対応
24時間365日のサポート体制で安心
＜大・中規模向け＞
tap
ホテル総合情報システム
■ 柔軟なカスタマイズ
・ ホテル全体の運営をフォロー
・ 業務改善に効果的
・ クラウド対応で安心・安全
＜中・小規模向け＞
accommod
■ 初期費用０円
・ タブレット１台で完結
・ 予約システムと一体化
・ ネット環境があれば OK
株式会社タップ
〒135-0016　東京都江東区東陽 2-2-4 マニュライフプレイス東陽町 1F
TEL：03-5683-5311　FAX：03-5683-5310　WEB：https://www.tap-ic.co.jp/

自社主催募集ツアーを
ネットで、販売強化！
『トラベルワーカー WEB連動 募集型企画旅行システム』で
解決！
予約までできない！　メールのやり取りがめんどう！　WEB更新がめんどう！　ネットでもっと売りたい！
基幹業務システム『トラベルワーカー』に完全連動
お客様が登録したデータをもとに、基幹業務システムにデータが自動生成され、担当者の入力作業が不要です。
24時間／365日 販売可能
予約と同時にお客様とツアー担当者へ確認メールが自動配信されるので、365日セールスチャンスを逃しません。
旅行商品 WEBページ自動生成
情報を登録するだけでWEBページ（旅行商品）が自動生成されますので、WEB制作の知識がなくても誰でも簡単に作成できます。
どの端末からでも操作OK
Windows、Mac、iPad、iPhone、Android、タブレットなど、ネット環境さえあれば何処でも、どの端末からでも操作できます。
あらゆる旅行商品に対応
バス募集旅行、パッケージ、AIR&ホテル、宿、クルーズ・・・ 海外／国内、自社主催／他社主催、在庫設定あり／なしに関わらず対応。
短期間で本稼働
従来の旅行業務基幹システムでは本稼働までに数ヶ月以上かかることも、トラベルワーカーならお申込後3～4日で稼働します。
最後の1席までWEB販売可能
在庫や催行状況は基幹システムのデータを直接参照しているので、WEB用の在庫設定／催行状況管理をする必要がありません。
安心のサポート
導入準備、操作方法のお問合せ、運用相談などは旅行業務を熟知した担当者が「遠隔リモート」を利用してサポートいたします。
idd 旅行業界初 Google（グーグル）の
クラウドサービスを利用したリテール旅行業務支援システム
TRAVELworker
アイディディ・トラベルワーカー
無料 遠隔リモート デモンストレーション実施中
詳細は『遠隔リモートデモンストレーション』でご確認ください。
ご都合のよい時間にお使いのPCでデモがご覧いただけます。
お問い合せ・お申し込みはホームページまで
www.idd-soft.co.jp/ 又は idd 検索
idd SOFTWARE Co.
株式会社 アイディディ・ソフトウェア／セールス・サポートセンター
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル２F Tel:06-6225-3665 / Mail:info@idd-soft.co.jp